

New Features in TNTgis 2022 (Updated 27 Dec 2021)

■システム全般

- OneDrive と DropBox のナビゲーションショートカットをファイル/オブジェクト選択ウィンドウに追加

■表示

- Bing Maps - バージョン 2022 で認証されたすべての TNTgis Pro ライセンスは、2022 年中も引き続き Microsoft Bing Maps レイヤにアクセスできます。これには TNTgis2022 がインストールされ、有効化された後の TNTgis の以前のバージョンも含まれます。
- 画像レイヤのヒストグラムをラスタデータベーステーブルに保存する機能が追加
- カラーパレットをラスタデータベーステーブルに保存する機能を追加
- ラスタから生成したサーフェスレイヤのヒストグラムを表示する機能を追加
- コントラスト強調の色相-強度/明るさ-彩度画像表示において、色相は調整できないので[色相]タブを除去しました。

■ジオリファレンス

- ジオリファレンスの転送に "Prior "オプションを追加し、以前のジオリファレンスに基づいて調整を決定するようにしました。これにより、複数の解像度を持つ多くの衛星で、高解像度バンドから低解像度バンドへの転送が可能になります。
- パラメータファイルを使って入力と参照の自動ロードを可能にしました。これにより、自動化ワークフローを行う SML スクリプトからジオリファレンスプロセスを起動することができます。

■画像のインポート

- JPEG2000、ECW、MrSID などの大きな外部フォーマット画像のインポート/コピーを高速化

■タイルセットのエクスポート

- HTML および関連する Javascript ライブラリを削除して、出力を簡素化

■リグカメラの調整と露出のバランス

- フレームにトラック番号を割り当てる方法を変更。フレームのスパンとより高いしきい値で最大の差を使用。
- トラックから GPS ポイントを見つけるためフォルダ内の目印のケースを処理します。

■図形要素による地表面特性(Geometric Surface Properties)

- ID として "Element Number(要素番号)"を使用する場合、他の用法と一致するように、0 ではなく 1 から開始するようになりました。

■図形要素による画像統計([画像]>[統計値]>[図形要素による統計])

- マスクで、どの画像セルを含めるかを指定できるようにしました。

- 図形オブジェクトはラスタと正しく一致するようにジオリファレンスが要求されるようになりました。

■バンド別の画像統計([画像]>[統計値]>[Image Statistics by Band])

- 1 番目と 3 番目の「四分位」計算と中間四分位範囲を追加
- 中間四分位範囲(interquartile range)の平均と標準偏差を計算します。
- '二乗和(sum of squares)'出力を追加

■流水解析([地形]>[流水解析])

- "Topographic Wetness Index(TWI:地形湿潤指数)"を追加。TWI がセルサイズに依存しないように、平均セル幅を自動的に調整します。

■地表面モデルを地形モデルに変換する(Convert Surface Model to Terrain Model)

- この新しいプロセスは「地表面モデル」から推定された「地形モデル」を計算します。これは、写真測量またはその他の地表面生成プロセスから作成した DSM を後処理して、地面から離れているセルをフィルタで除去するのに役立ちます。
- 最大勾配と探索距離を制御するパラメータを使用して、フィルタリングを調整できます。

■スクリプティング/ SML

- IMAGE_PIPELINE_FILTER_DATATYPE_SETTINGS に、バイナリラスターを出力する機能を追加
- IMAGE_PIPELINE_TARGET_TIFF に、ジオリファレンスの説明テキストを生成するオプションを追加
- IMAGE_PIPELINE_FILTER_UNIFORMITY を追加して、指定された最大範囲に基づいて局所的な均一性を計算します。
- IMAGE_PIPELINE_FILTER_NORMALIZED_DIFFERENCE を追加して、入力画像のペアから正規化された差分画像を計算します。
- 画像サンプルデータ型に「バイナリ」を追加
- 処理中に統計値を効率的に計算するために、IMAGE_PIPELINE_PASSTHRU_STATS を追加
- Raster Focal セクションに FocalMode()関数を追加
- RasterLinearCombination()関数でバイナリラスターの使用を許可します。
- CalcSunAngles 関数を追加。場所と日付/時刻の太陽方位角/高度を決定します。
- ComputeRasterProperties()を追加。図形オブジェクトからラスタ統計値を計算できます。
- WatershedCompute()に、地形湿潤指数、集水域、および勾配を計算する機能を追加
- RVC ファイルに保存されているスクリプトを直接実行する場合、スクリプトが 1 つしかない場合は、ユーザにプロンプトを表示せずに直接実行します。これにより、暗号化されたスクリプトの操作がより便利になります。
- SetLogToFile()を追加。コンソール出力をファイルに自動ロギングできるようになりました。
- clear()関数を使用してコンソールをクリアする場合、前の自動ログに追加されないように、前のコンソールログファイルをクローズします。

- INIHANDLE クラスのメソッドが追加。後続のスクリプト実行の設定の保存をより細かく制御できるようになります。

■WebGIS - アセンブル ジオマッシュアップ

- 様々な安定性の向上

■その他

- GPS 情報を EXIF に保存するときに、「秒」の小数点以下 4 桁を記録し、負の標高値にタグを付けるようにしました。
- 地表面モデリング - TIN 操作での最大メモリの設定の上限を削除しました。
- 画像主成分 - 報告されるさまざまな統計の精度を高めました。
- Lidar 分類 - 写真測量的に導出された点群を処理するために、最大勾配の範囲を 200%に増やしました。
- 画像トレンド分析 - 一般的な用語に準拠するため、多項式に対して「order」ではなく「degree」を使用
- コンポジットラスタの計算 - 2バンド比較を可能にするために、同じ入力を複数回使用する機能を追加

(翻訳:OpenGIS 2022/1/7)